

王裕民 编著

山西科学技术出版社

中医妇科 治验集锦

96
2271
27

(晋)新登字5号

中医妇科治验集锦

王裕民 编著

王兆荣 王菊花 王兆静 整理

*

山西科学技术出版社出版 (太原井州北路十一号)

山西省新华书店发行 山西人民印刷厂印刷

*

开本: 787×1092 1/32 印张: 5 字数: 101 千字

1995年10月第1版 1995年10月山西第1次印刷

印数: 1—5 000 册

*

ISBN 7-5377-1108-9

R·450 定价: 5.80 元

序

临床疗效是中医学术赖以生存和发展的基础，因此，提高临床疗效已成为中医学术发展的关键之一，而总结名老中医学术经验，则是提高临床疗效，促进中医学术发展最基础之工作。山东名中医王裕民主任医师编写的《中医妇科治验集锦》系他几十年经验之总结，书中医理明要部分，系他在勤求古训，博采众家之说基础上，结合个人心得体会，为妇科临床医生阐明了妇科辨证论治，遣方用药之至理精要，使读者能重点掌握妇科临证之纲要；书中医案部分，总结了他几十年经验，足为临床者所法；书中杂证治验随笔部分，则介绍了他诊治其他各种杂病之心得体会，特别是他自拟“朱砂一粒丹”对癫痫的治验，曾获1982年泰安地区二等奖及1982年山东省科技奖。由于本书总结了王老几十年诊治妇科常见病之经验，理论联系实际，是一部既有理论价值，又有实用价值的中医论著，故愿以为序。

胡熙明

1995年3月11日于北京

序

余友王裕民主任医师，乃齐鲁名医，曾为山东省委领导同志保健医，后筹建泰安市中医院，从医五十余春秋。素怀济世治人之心，医德高尚；精研内难仲景之书，学识渊博；熟谙岐黄扁鹊之术，医道精湛。王老辨证精详，审疾问病，理法详明；处方遣药，法度严谨。故临床诊治，疗效显著，每起沉痾之疾于危重之际；愈疑难之症在顷刻之间，数十年来，治人无数。谚云：“宁治十男子，不治一妇人。”盖以妇人较男子有胎产经带之异，故有经水、带下、胎前、产后诸疾。王老学宗傅青主，但又不泥于傅氏之说，而博采诸家之言，结合个人经验，故临床诊治，多有创见，如生化汤对产后的应用，四物汤在妇科中的应用等，均有独到之处。王老不仅医德高尚，医术精湛，且为人忠厚朴实，以助人为乐，余对此深有体会。1980年5月由南京中医学院、山东中医学院、河北医学院联合在泰安召开部交科研任务《黄帝内经素问校释》一书之审定稿会议期间，余忽接卫生部中医司通知称中医研究院组织召开全国中医专家、教授，在泰安召开中医文献整理研究会议，令余安排代表食宿，事出突然，且代表次日将陆续到达，余人地两生，筹备无门，经山东中医学院张灿璜院长介绍余与王老联系，此时余与王老只有一面之缘，而王老慨然应允代为奔走，经王老安排，圆满地解决了与会代

表食宿行等问题。由此可见王老急人所急，为人解决危难之精神。

1993年秋，王老嘱余为其所著《中医妇科治验集锦》一书作序，余从事中医书稿编辑、编审工作三十余年，编辑审阅国内名老中医专家、教授各类书稿不下百余种，从中得益匪浅。今为王老作序，非谓王老之书较其他专家之书为优也；亦非为报昔日王老解余危急之德也。盖以王老之书稿，系王老几十年治验之总结，对妇科临证者，确有一定参考价值。书中医理明要部分，系王老在勤求古训，博采众家之说基础上，结合个人心得体会，为妇科临床医生，阐明了妇科辨证论治、遣方用药之至理精要，使读者能掌握妇科临证之纲要；书中医案部分，总结了王老几十年的经验，足为临床者所法；书中杂证治验随笔部分，则介绍了王老治疗其他各科杂病之经验，特别是王老自拟“朱砂一粒丹”对癫痫的治验，总结了治疗500余例癫痫病之经验，余有幸曾亲睹王老诊治癫痫之病例，其疗效确如桴鼓之相应。书如其人，所论述医理，言简意赅，朴实无浮华之词；所举治验，真实有据，翔实可靠，足以为法，故愿以为序。

赵锡

1994年10

前 言

本书系笔者将从事中医妇科临床 50 余年获得的经验总结、汇集而成。内容主要包括以下部分：

一、医理明要：共计 5 篇，主要反映了笔者对中医妇科基本理论及其临床应用的独特见解。如四物汤加桃仁、红花在妇科临床上的运用，不孕症的概念和认识，对妇科病应从脏腑、经络、气血等方面论治，以及四诊在妇科诊断方面的运用等。

二、临床证治：分室女经病、少妇经病、妊娠病、分娩不利、产后病、崩漏、带下病、不孕症及女科杂病几部分，介绍笔者临床经验，并收录了杂证治验随笔，反映了笔者对部分中医疑难病证的治疗经验，并以简要的医理加以说明。

由于笔者文化水平不高，写作能力不强，书中定有不当之处，敬希广大中医界同道们给予指正。

王裕民

1994 年

目 录

医理明要.....	(1)
一、女科理论与脏象、经络学说.....	(1)
二、女科病治疗原则	(14)
三、四物汤加减在女科中的应用	(15)
四、妇科诊断概要	(20)
(一) 望诊.....	(20)
(二) 问诊.....	(21)
(三) 闻诊.....	(23)
(四) 切诊.....	(24)
临床证治	(26)
一、室女经病	(26)
(一) 经早.....	(26)
(二) 经迟.....	(27)
(三) 经期紊乱.....	(28)
(四) 痛经.....	(29)
(五) 倒经.....	(30)
(六) 病理性经闭.....	(31)
(七) 室女冲血似崩症.....	(34)
(八) 室女经多.....	(36)

(九) 室女经少·····	(37)
(十) 室女血枯症·····	(38)
二、少妇经病·····	(39)
(一) 月经赶前·····	(39)
(二) 月经错后·····	(40)
(三) 经期紊乱·····	(40)
(四) 劳伤冲任·····	(40)
(五) 经寒后期·····	(41)
(六) 经水瘀阻病变·····	(41)
(七) 气郁冲任失调证·····	(42)
(八) 少妇肥胖痰多充盈血海·····	(43)
(九) 少妇经闭·····	(43)
(十) 经闭脉象·····	(44)
(十一) 经病不孕分型及治疗·····	(45)
三、妊娠期和妊娠病·····	(48)
(一) 妊娠原理·····	(48)
(二) 验胎·····	(48)
(三) 胎教·····	(49)
(四) 妊娠过程·····	(49)
(五) 妊娠摄生·····	(50)
(六) 安胎·····	(52)
(七) 妊娠辨脉·····	(52)
(八) 妊娠禁忌·····	(54)
(九) 妊娠药忌·····	(54)
(十) 妊娠期用药须知·····	(55)
(十一) 妊娠病变须知·····	(55)

(十二) 妊娠期常见病及诸癥·····	(56)
(十三) 脏寒证·····	(56)
(十四) 妊娠腹痛·····	(57)
(十五) 妊娠恶阻·····	(58)
(十六) 孕妇小便不通·····	(59)
(十七) 妊娠眩晕·····	(59)
(十八) 胎气不长·····	(60)
(十九) 妊娠胃痛·····	(61)
(二十) 孕期转胞·····	(61)
(二十一) 孕期胎动·····	(62)
(二十二) 胎漏·····	(62)
(二十三) 半产·····	(63)
(二十四) 胎育不长·····	(64)
(二十五) 过期不产·····	(65)
(二十六) 妊娠咳嗽·····	(65)
(二十七) 子烦·····	(65)
(二十八) 孕期类中风·····	(66)
(二十九) 孕期风寒·····	(66)
(三十) 妊娠疟疾·····	(67)
(三十一) 妊娠痢疾·····	(68)
(三十二) 子淋·····	(70)
(三十三) 妊娠血证·····	(71)
(三十四) 孕期遗尿·····	(71)
(三十五) 妊娠头痛·····	(72)
(三十六) 孕妇胁痛·····	(72)
(三十七) 孕妇腰背疼·····	(72)

(三十八) 子肿.....	(73)
(三十九) 妊娠不语.....	(73)
(四十) 子悬.....	(74)
(四十一) 子痫.....	(74)
(四十二) 妊娠乳泣.....	(74)
(四十三) 堕胎.....	(74)
四、分娩不利	(77)
(一) 难产因素.....	(77)
(二) 预防难产.....	(78)
(三) 伤胎.....	(78)
(四) 胞干.....	(79)
(五) 难产.....	(79)
(六) 胎衣不下.....	(80)
(七) 正产.....	(80)
(八) 催产.....	(80)
(九) 冻产.....	(80)
(十) 热产.....	(81)
(十一) 横产.....	(81)
(十二) 偏产.....	(81)
(十三) 坐产.....	(81)
(十四) 盘肠产.....	(82)
(十五) 揣摩.....	(82)
(十六) 临产饮食.....	(82)
(十七) 交骨不开、阴户不闭、子宫不收.....	(82)
五、产后病	(83)
(一) 新产调护.....	(83)

(二) 产后药忌·····	(84)
(三) 产后表证·····	(85)
(四) 产后下痢·····	(85)
(五) 产后血虚·····	(86)
(六) 产后诸禁·····	(86)
(七) 产后病脉·····	(87)
(八) 产后血晕·····	(87)
(九) 产后三冲·····	(87)
(十) 新产后三急·····	(88)
(十一) 新产后发热·····	(88)
(十二) 产后寒热·····	(88)
(十三) 产后中风·····	(89)
(十四) 新产后咳嗽·····	(89)
(十五) 产后下痢虚极·····	(89)
(十六) 褥劳·····	(90)
(十七) 产后泄泻·····	(91)
(十八) 产后浮肿·····	(91)
(十九) 产后衄血·····	(91)
(二十) 产后乳疾·····	(91)
(二十一) 生化汤在产后的应用·····	(92)
附：验案·····	(93)
六、崩漏·····	(95)
(一) 崩漏原理·····	(95)
(二) 病因病机·····	(96)
(三) 崩漏的治疗原则·····	(96)
1. 气虚崩漏·····	(97)

2. 心脾两虚崩漏	(97)
3. 肾阳虚衰型崩漏	(97)
4. 气滞血瘀崩漏	(97)
5. 血热妄行崩漏	(98)
6. 肝气郁结型崩漏	(98)
(四) 少妇崩漏	(100)
1. 少妇崩漏	(100)
2. 崩症腹痛	(100)
3. 风入胞门	(100)
4. 少妇淋血	(101)
5. 崩漏脉象	(101)
七、带下病	(102)
(一) 带下分类	(102)
(二) 病因病机	(103)
(三) 治疗	(103)
1. 脾虚带下	(103)
2. 肾虚带下	(104)
3. 湿热带下	(104)
4. 赤白带下	(105)
5. 黑带	(105)
6. 五色带下	(106)
7. 白淫	(106)
附：验案	(107)
八、不孕症	(108)
(一) 不孕症的分类	(109)
(二) 不孕症的治疗	(109)
九、女科杂病	(111)

(一) 子宫病变	(111)
(二) 阴吹症	(111)
(三) 瘰癧	(112)
(四) 妇女乳痛	(112)
十、杂证治验随笔	(115)
(一) 自拟朱砂一粒丹对癫痫病的治验	(115)
(二) 人面疮治验	(120)
(三) 狼毒枣中毒症治验	(121)
(四) 手术后遗头痛治验	(122)
(五) 产后风寒入里治验	(123)
(六) 尿毒症治验	(124)
(七) 低烧治验	(125)
(八) 胃柿石症治验	(126)
(九) 子宫湿热淋浊治验	(127)
(十) 脾肾阳虚证治验	(127)
(十一) 杞菊地黄丸加减治疗斑秃症	(130)
(十二) 消渴病治疗经验	(132)
(十三) 老年病的预防治疗	(136)
(十四) 慢性肾炎水肿治疗经验	(141)

医理明要

人体以脏腑、经络为本，以气血为用，妇女在生育生理上与男子有所不同，有月经、带下、妊娠、分娩、哺乳等特点，这些特点都与妇女脏腑、经络、气血等功能活动的正常与否有关。盖脏腑是生化气血之本，经水源于肾，胞宫为行经和孕育胎儿的器官，经络乃气血运行的通络；气血系产生月经、孕育胎儿、化生乳汁的物质基础，这些功能正常，则妇女经、带、胎、产、乳正常，反之，可导致月经病、带下病、妊娠诸病（包括不孕症）、产后诸疾、乳病以及妇科杂病等。

因此，研究妇科疾病的辨证论治，首当以研究妇女脏腑、经络特点为核心，必须对祖国医学脏象学说、经络学说中有关妇科的理论有所了解，并掌握其要点。

一、女科理论与脏象、经络学说

脏象学说是祖医学中最基本的理论之一，是用于阐述人体生理功能、病理机制的理论，是中医辨证论治的依据，它与经络学说互相联系，成为中医妇科学中不可分割的基本理论。早在《素问·上古天真论》中就对妇女生育生理，以及人体发育、成长、衰老的过程，作了系统而又概括地论述，指

出了“肾气”及“任脉”、“太冲脉”等在这些方面的作用，从而为后世妇科学以脏象学说和经络学说为理论核心奠定了基础。此后，历代有关妇科的论述和专著，都在此基础上有所阐述和发展。例如汉·张仲景的《金匱要略·脏腑经络先后病篇》对病因、病机、诊断、治疗、预防及护理等方面的原则问题，以脏象学说和经络学说为指导，进行了概括地论述，提出了早期治疗、“不治已病治未病”的观点，发展了《内经》脏象学说和治未病的思想。该书第20~22篇，则在首篇的理论指导下，具体地阐述了妇产科诸病的证治，为后世的妇科辨证论治奠定了理论基础。唐·昝殷所著的《产宝》在治疗上重视调理气血，补益脾肾，成为后世妇科临床上重要治疗原则。宋·陈自明所著的《妇人大全良方》，是陈氏在勤求岐黄之古训，博采历代前贤有关妇产科名论的基础上，参以陈氏本人临证经验及家传三世验方，整理而成。其辨证以脏腑、经络为主，在治疗上重视精、气、血的调养，对后世妇产科的发展有深入的影响。其后如明代王肯堂的《女科准绳》、薛己的《女科撮要》、张景岳的《妇人规》和清代武之望的《济阴纲目》等，均在前人论述的基础上，以脏象学说、经络学说、气血学说等立论并加以阐发。因此脏象学说等不仅是祖国医学最基本的理论，也是妇科学的基石。

在脏腑的机制上，男女大致相同。但由于女子的生理特征和疾病特点，故在脏腑之中，应重点了解肝、脾、肾和女子胞。

肝：肝为藏血之脏，主疏泄，性喜条达而恶抑郁，有调节情志、疏通气血等功用。肝与冲脉血海关系密切，在妇女生理、病理上占有重要地位。妇女的经、带、胎、产皆以血

为主，为冲脉血海所施。冲脉血海的充盈与否，除了与先天肾精和后天脾胃（水谷之精）之化生有关外，更重要的是有赖于肝之藏血功能。如肝不藏血，调节失常，下迫冲、任，就会发生崩中、漏下等疾。若肝阴不足，则肝阳偏亢，可见头晕目眩、少寐惊惕、悒悒不乐、月经先期、经行吐衄、崩漏等症。多怒伤肝，肝郁气滞，则发生月经先后不定期、痛经、经行腹痛、经前乳房胀痛、闭经、不孕、缺乳等症。若肝郁化火，则生崩漏、经行吐衄、产后乳房膨胀或乳汁自出等症。故对妇女诸疾每多从肝调治。

肝藏血，肾藏精，精血同源，故在滋养肝血法中，多加益肾之品，谓之子母相生（肾水生肝木），即“乙癸同源”之意。肝主疏泄与肾主藏精之间，互相协调，关系密切。若二者关系失调，肝疏泄太过，肾不闭藏，则男子可见遗精，女子可见月经失调、漏下等症，故临床上常肝肾同治。如妇女经水过多，行后复行，淋漓不断，属血虚肝旺、血不归经者，常以四物汤加山萸肉、泽泻、川断等以养阴血、滋肝肾。如经水忽来忽断，证属血虚肝郁者，常以四物汤加丹皮、生白术、元胡、木香、香附以调肝，更加熟地以益肾。在肝气不舒所致月经病变中，因冲任二脉皆源于肝肾，故在补肝益肾法中，加入清芳消散之品，以条达气机，疏通经络。

脾：脾为后天之本，气血生化之源，主运化，主统血。《女科准绳·调经门·经候总论》曰：“血者水谷之精气也，和调五脏，洒陈六腑，在男子则化为精，在妇人上为乳汁，下为血海，故虽心主血、肝藏血，亦皆统摄于脾。”心脾协调则经候如常。因此调补脾肾，使之升降正常，在妇科临床上有着重要意义。故李东垣曰：“妇人脾胃久虚，形体羸弱，气血

俱衰，而致经水断绝不行，或病中消，胃热，善食消瘦，津液不生。夫经者，血脉津液所化，津液即绝，为热所烁，肌肉消瘦，时见渴燥血海枯竭，名曰血枯经绝，宜泻胃之燥热，补益气血，经自行矣。”李氏这段论述，阐发了脾胃与精血、血枯经闭之间的联系，并提出了治疗之大法，很值得借鉴。临床上治疗经血病，当用酸甘辛温之剂以助阳气而生阴血，禁用苦寒之药，以免克伐脾胃之气，经行之际亦当禁用苦寒辛酸，饮食亦然。

脾之所以健运不衰，有赖于肾阳命门火旺之推动，胃之所以能纳谷和降，有赖于心火的援助。若肾阳不足，不能温煦脾阳，则可出现腹部冷疼，下利清谷或五更泄泻等症，治当脾肾兼顾。临床上，对经前泄水症，用傅青主健固汤加减，以人参、茯苓、白术、甘草健脾行气，以木香、巴戟天、肉桂温振肾阳，即是脾肾双补之法。若思虑过度，耗伤心血，影响脾之运化及胃之受纳功能，便会导致心气不得下通，故月事衰少不来，发生月经疾患，治当心、脾、肾兼顾。临床上对室女经少，体虚心弱，用《妇人大全良方》劫劳散加减，以人参、白术、茯苓、甘草、黄芪、陈皮健脾益气，以寸冬、生地补肾滋阴，以当归、阿胶养血补心，以丹皮、地骨皮滋阴凉血，即是心脾肾兼顾，气血同调之意。

肝主疏泄，脾主运化，土木相安，则气血和畅，故调肝也是治脾胃的主要方法。临床上对脾胃虚弱者，每有肝气不舒或肝气过旺，而致经带诸症者，常肝脾同治。如白带症，常以完带汤加柴胡、白芍，即是疏肝泻脾之意。又如肥胖不孕的妇女及妊娠浮肿者多属脾虚，常治以补中益气汤加减，其中亦有调肝的意义。